

## 2022年度 全国指導者会 ブロック責任者会議 開催報告書

(日時) 2022年 9月 12日 (月) 9:00~17:00

(場所) 福島県小野町「多目的研修施設」

(出席者)

正副会長 3名、アドバイザー 2名、全国指導者会ブロック責任者 10名 他  
詳細は、会議資料を参照

## 1. 開会

・菅原理事長 挨拶

全国指導者会のブロック責任者会議を小野町で開催でき村上町長をはじめ関係者の皆様に感謝申しあげる。の場には村上町長にご臨席をいただいているが、ぜひ、このような熱意があり一生懸命に活動しているB&G指導者の仲間たちが全国にいることを肌で感じていただきたいと思う。今年は、3年に1度開催となる総会が開催となる。みなさんには、活発に意見を出していただき、新たなものを作り上げていってほしい。

・小野町 村上町長 挨拶

小野町が全国指導者会の会議会場となったことは大変喜ばしい。全国指導者会が、海洋センターと連携して、水辺の安全教室などの実践活動を通じて青少年の健全育成に取り組んでいることに敬意と感謝を申しあげる。将来を担う青少年が心身ともにたくましく成長するため、地域住民の健康増進と交流のため、指導者会の担う役割はますます重要になってくる。今日の会議を通じて指導者間の連携や情報交換、指導力向上に努めていただきたい。

・工藤会長挨拶

今回、小野町で会議が開催できていることについて、菅原理事長はじめ皆様に大変感謝を申しあげる。1年ぶりの会議となるが今回から、6人のブロック責任者が新任となった。私も40年前に指導員資格をとった。すでに現場を離れて久しいが、以前は海洋センターの担当をしていたので、皆さんとおなじ仲間である。また皆さんを代表して財団の評議員も務めさせていただいている。全指会の活動を評議員の皆様にもご理解いただけように、しっかりと自分に与えられた職を務めていきたい。

今日は、3年以1度の総会に向けた議題になるが、次の3年間の目標と、実践活動の内容にしていくのかを話し合う大事な会議になる。忌憚のない意見を出し合いながら、最終的な方向を決めて総会に臨みたい。

## 2. 活動状況報告

会議資料（P2～6）をもとに、職員が説明。

## 3. ブロック責任者の用務と今後のブロック内センター等との連絡体制

曾根副会長から資料（P18～19）を使い、ブロック責任者の役割と年間のスケジュール、各県責任者、各センターとの連絡体制について説明した。

## 4. 全国指導者会の各目標進捗状況

ブロック責任者から、海レクや海ごみ清掃活動の未実施センターの状況と対応、改善に向けたアイデア等について、報告していただいた。

詳細は議事録を参照

### ●海レク実施 決定事項

- ・ 未実施センターへやるべきことを働きかけ、達成に向けてやっていく
- ・ アンケート未回答は9月中に回答を回収する ⇒ 回答状況をブロック責任者に共有する
- ・ 次年度以降は、全指会目標に取り組まないセンターは財団評価に影響を与える（評価を下げる）ことを希望したい

### ●海ごみ清掃活動 決定事項

- ・ 啓発活動が重要なため、事務局から再度啓発の重要性を伝え、清掃・啓発の未実施センターへ確実な実施を促す。
- ・ ブロック責任者から、ブロック内センターへ会議等などの機会を利用して、未実施センターへやるべきことを働きかけ、達成に向けてやっていく

### ●食品ロス 決定事項

- ・ 趣旨に賛同して、取り組みができるところが実施して、少しずつ実施箇所を増やしていく

## 5. 第5回全国指導者会 記念総会

資料 P31～44 を基に 2023 年 2 月 3 日（金）、4 日（土）で開催を予定している第 5 回記念総会について、現在の参加予定人数（ブロック、県別）と参加者確保の対応、講義講師案、アトラクション、参加記念品などについて討議した。

詳細は議事録を参照

## ●決定事項

### 参加者確保について

- ・ 事務局や財団職員などで、未回答センターから9月中に回答を得る
- ・ 事務局にて、不参加センターに再度文書を発信し、予算の確保を依頼する
- ・ 道府県連幹事センターへ予算確保している総会の参加費補助の執行を依頼し、総会参加者人数をさらに上乘せしていく
- ・ ブロック責任者からも、人数を追加できるセンターには個別にアプローチする

### アトラクションについて

- ・ 参加型イベントは、体力測定会の方向で進める
- ・ また、酒井法子さんについても確認する。酒井さんが無理であれば、エイサーや和太鼓の料金や送料などの費用を事務局で確認し、みなさんに共有する
  - ⇒日本太鼓連盟に連絡し、謝金と輸送費で10万円程度とのこと（交通費、車両駐車場は別途）
  - ⇒新宿で毎年エイサーまつりが開催されており、都内で活動する団体が複数ある

### 記念品について

- ・ できるだけ希望のあったブランドの中から、希望する商品を価格や数量、納期からあたり、ポロシャツ等の服を選定することとする

### 講義講師について

- ・ 食育の中野ヤスコさんは、講師として決定することを了解いただいた。残りの一名の講師は事務局で預かり、みなさんに情報共有する。

## 6. 次期3か年目標について

B&G 財団の定款変更（地域社会の健全な発展の追加）を受け、記念総会で決定する次期3か年計画について意見交換を行った。

詳細は議事録を参照

## ●決定事項

- ・ 次期3か年目標については、オンライン会議などを使い、今後も打ち合わせしていく

所感

・中島

今回のブロック責任者会議では、2022年度の活動目標達成に向けた方策の検討と、第5回記念総会に関する話し合いを行った。

活動目標については、海レクや海洋ごみ清掃を実施するよう、引き続き各センターに働きかけを行うことで一致した。また、指導者会目標が未実施の場合は特Aとしないことを、次年度海洋センター評価基準の策定時に検討することが財団の方向性として示されたことは、指導者会が活動していく上で大きな後押しとなるものとなった。

総会については、目標人数達成の方策、基調講演やアトラクション企画などの方向性を決定したが、全般的にもっと踏み込んだ議論につながるよう、出席者に対して前もって議題を周知し、各自で検討いただくなど、事前準備の必要性を感じた。

今年度は6名のブロック責任者が交代し、初めて対面する場でもあったが、会議を通じて正副会長やブロック責任者の連携が深まっていくことを実感し、全国指導者会の活動を盛り上げていくために有益な会議であると改めて認識した。

指導者会総会の実施内容の決定とともに、次年度以降の基本方針・活動目標の策定が今後の大きな検討事項となっている。引き続き、副会長やブロック責任者と共に建設的な議論を重ね、総会および次年度の活動に向けて準備を進めていきたい。

・東條

全国指導者会の担当となってから、全指会に関する各県責任者や各センターへの連絡が、その時々によって、事務局であったりブロック責任者であったりしていたため、受け手側が混乱することを懸念していた。また、一部のセンター担当者の中には全指会のブロック責任者を知らない者もいることから、ブロック責任者の存在を印象付ける必要があると感じていた。そこでブロック責任者会議前に行った副会長会議で話し合い、今回の会議で曾根副会長から資料を基に今後の連絡体制やブロック責任者の用務について説明し、了解を得ることができた。これからは今まで以上に、B&G指導者の意見や意思を反映できる全国指導者会となるようにしていきたい。

今回の会議では、記念総会に向けた方向性が確定できたが、まだまだ決めなければならないことは多い。副会長、ブロック責任者、事務局の役割分担を明確するとともに今まで以上に連絡を密にして、記念総会を成功させたい。

・鈴木

昨年度より約2か月早い日程となり、東北とはいえ、暑さが残る中での開催となった。開催にあたり、曾根副会長、工藤副会長と8月から打ち合わせを重ね、よりブロック責任者が全指会に前向きに関われるように、副会長⇒ブロック責任者⇒県幹事の連絡、報告フローへの変更を曾根副会長から会議で提案し、会議内で出席者から了承を得られたことも成果の一つとなった。

新ブロック責任者6名が会議初参加となり、全員が一堂に会して、会議を行うことは議案内容を決定する上でも、有効で、会議の中で決定すべき項目が多岐に渡るため、本会議は全員が集まって、議論することが欠かさないと感じた。

小野町には、送迎車の対応や町長の挨拶、昼食手配業者や懇親会場の紹介、隣の田村市の教育委員会への視察依頼において、多大なる協力があり、無事に終了することができたことは、感謝したい。

2020年度から東京以外で本会議を開催しているが、選定基準としては、10名から20名の移動に係る車両の手配、20名が泊まれる宿泊施設、懇親会や昼食対応などがあげられ、BGへ理解のある自治体であることが必要不可欠である。

記念総会の各項目の内容や次期3か年目標は年内での決定、今年度の目標達成への対応は2月までに、副会長及びブロック責任者と情報共有して、議論、決定のプロセスを進めていく必要があるため、スケジュールを組んで進めていく。

#### ・亀谷

今回、初めてブロック責任者会議に参加させていただいたが、感想としては、ブロック責任者が予算を含めた内部事情までは把握していないことから、講師の選定部分では、夢物語を語るだけの状態であったと感じた。無論、たくさんの意見が出るのが望ましいが、責任者としては内部事情も分かったうえでの会議としたいと感じた。しかしながら、責任者の方々はB&G財団への理解が強く、B&G全国指導者会があるべき姿の考えを各々が持っている

と感じた。事務局の一員として、B&G全国指導者会が地域の為に動ける大きな団体となるよう、今後ともサポート行っていきたい。また、2月の総会が成功するよう、事務局としてまずは目標人数達成に向けた各地域の指導者に呼びかけを行うとともに、事務手続き、今後の方向性を決定していきたい。

13日は、小野町B&G海洋センター、田村市総合体育館、コミュタン福島の3カ所を視察した。ブロック責任者は小野町B&G海洋センター、田村市総合体育館を視察された際、各自自治体の海洋センターに無い設備に対し、関心を示している様子であった。また、コミュタン福島では、防災の観点から「福島復興へのあゆみ」について学ばれている様子であった。視察先については、今後も責任者会議が全国各地で行われるのであれば、その地域の特徴や参考になるような視察先を検討していく必要があると感じた。



以上